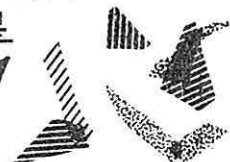




ジュピター 木星



／冬のプラネタリウム「ジュピタークルーズ」の話題／

ジュピターはギリシャ・ローマ神話にでてくる最高の神ゼウスの別名で、太陽系最大の惑星、木星の英語名としても使われています。

木星はジュピターの名前にふさわしく、直径が地球の大きさのやく11倍、重さが300倍もある巨大な惑星で、4つの大きな衛星と12個の小さな衛星をしたがえ、太陽から7.7億kmの距離のところをまわっています。しかし、木星本体は地球のような固い地面を持った惑星ではなく、ほとんど水素やヘリウムといったガスでできている惑星です。

小さな望遠鏡などで表面を見ると、何本かのしま模様と、大赤斑^{だいせきはん}と呼ばれる地球の直径の3倍ほどもある巨大な渦巻き^{うずまき}が見られます。これは木星大気に浮かぶ雲が作りだす模様で、この模様はたえず変化しています。特に、去年まで2本見えていた、しま模様が今年は1本しか見えなくなっていました。

木星大気には秒速100mほどの強い風がいつも吹いていて、この風や内側からの熱によって、このような雲の模様ができるのです。ぶ厚い雲を浮かべた大気はやく1000kmの厚さで表面をおおっていて、その下には、液体になった水素の海が広がっていると考えられています。

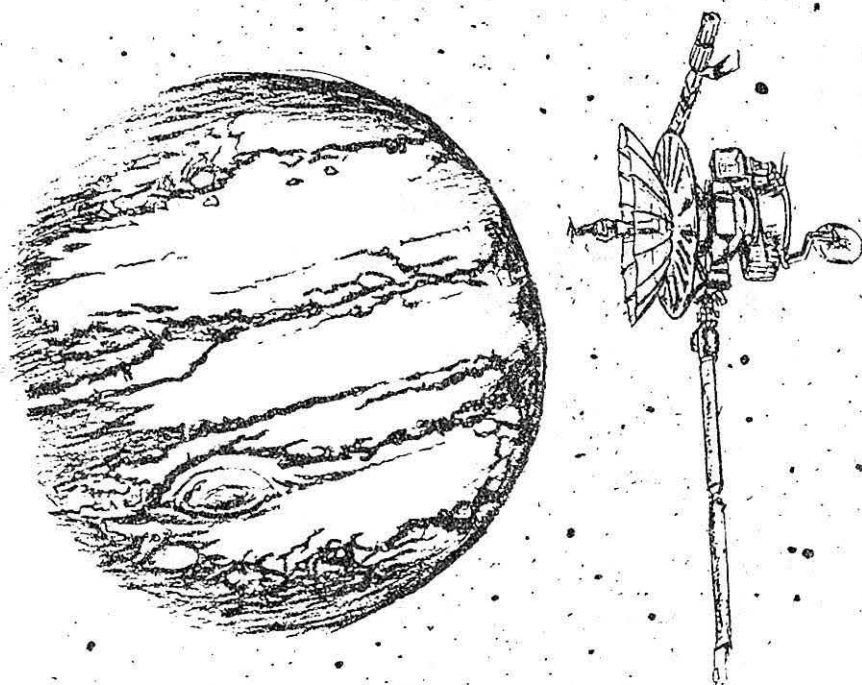
この木星にはじめて望遠鏡を向けたのはガリレオでした。そしてそのまわりに4つ衛星があることを発見し、ガリレオ衛星と呼ばれています。

さらに、最近になってアメリカの探査機が木星の近くまで行って調べました。それによると、木星には土星と同じように環^わをもっていることわかりました。

また、木星の雲の中では、地球と同じように雷がおきていることや（この雷は地球で発生するものより何百倍ものエネルギーを持っ

ているものだそうです）、木星の北極や南極の近くではオーロラが発生していることがわかりました。

1989年10月18日、新しい木星探査機ガリレオがスペースシャトルによって打ち上げられ、やく6年後に木星につきます。この探査機は、今まで木星を調べた探査機のパイオニアやボイジャーとは違い、木星のそばを通り過ぎるのではなく、まわりを回って長い時間におたって木星やその衛星を探索しようとするものです。特に、小さな探査体を木星大気の中に降下させて、その成分や様子を調べます。また何か新しい発見があるに違いありません。（布村 克志）



木星に接近するガリレオ探査機



富山市科学文化センター

〒939 富山市西中野町1丁目8番31号
電話 (0764) 91-2123 (代表)

平成元年12月1日発行